



人間よ気高くあれ/情け深く善良であれ/そのことだけが/ほかの一切の生き物と人間を区別する — 今年の 9 年生が卒業
オイリュトミーとして私たちに残してくれた、ゲーテの言葉です。東日本大震災の年に入学した 7 期生は、また新たなカオス
の中を旅立ちました。撥ねつける力強さではなく、受け入れ合う柔軟な強さを。混乱の最中にあっても忘れてはならないもの
はなにかを教えてくれているような気がします。私たちはこの春をきっと忘れないでしょう。

卒業に寄せて



9 年間子どもたちの成長物語を語るときにどうしても触れておきたいことは「8 年生劇」と「卒業プロジェクト」の二つです。7 年生から 9 人になった子どもたちには最初寂しさと心細さがありましたが、やがて小さいながらも楽しい我が家といったような雰囲気になりました。そして子どもたちは 7 年生の終わりから取り組み始めた 8 年生劇「冬物語」(W. シェイクスピア)に自由に楽しく思いっきり向かって行きました。それはひとつの大きな節目となりました。子どもたちも担任も本当に楽しめました。半年間の納得のいく取り組みと喜び溢れる上演となりました。子どもたちの内的な変化と成長を肌で感じることができました。「子どもどうして言い合って、子どもが新たに取り組み、日々一歩ずつでも前進してくれたらそれでいい。」という気持ちでした。小さな変化を面白がり喜びあいました。管弦楽の合奏、ダンス、衣装、大道具、小道具、チラシヤパンフレットなどありとあらゆる活動に若者の尽きることのないエネルギーが向かっていきました。「この瞬間を最大限に生きること」の連続だったと思います。今思い返しても喜びとエネルギーと感謝が湧いてきます。

そして 9 年生で取り組んだ卒業プロジェクトは 8 年生劇とはまたちがった個々人の発信力が活きる活動でした。共通の基本は「自分で何かを作ること」とし、調べ学習とは異なり「自分の感動ポイント」を明確に捉えた上で取り組んでいきました。7 人が「保護犬・猫」、「演技」、「カメラ」、「舞妓さん」、「足踏みミシン」、「絵画の陰影」、「自分の部屋のリフォーム」といったテーマに意欲的に取り組みました。3 月 1 日に行われた発表を 9 年生保護者以外の皆様にもぜひ見ていただけたらと思います。個々人が生き生きとして、ときには涙を流し、たくさん笑い、ユーモアを交えつつ自らの深い探求を発表しました。その彼らの姿は、担任が立派な人間でなくても、世間の状況がどうであろうとも、どういう時代に生きていようとも「子どもの成長力がその人を作る。人は本来善きものを目指すものだ。」ということのよい証となったと思います。

私は 3 月末で学園を退職致します。担任を 9 年間させていただくことができたのは、教員・職員の方々のご協力、そして波や風を受けてもずっとクラスを支えてくださったご家庭のおかげです。素晴らしい 8 年生、9 年生の時代を子どもたちとともに学ぶことができたのはなんとという幸運でしょうか。心から感謝しております。どうも有難うございました。

(9 年担任 森田修)

今から 10 年前、シュタイナー学校の英語教師を退職し一般企業で働いていたとき、別々の人から電話がかかってきました。2 人とも「横浜シュタイナー学園で担任を探しているから考えてみては」という話でした。シュタイナー教育に出合ってから、同時に企業で働きはじめてから 20 年近くが経っていました。私には担任の仕事は難しいだろうと思い、最初は気乗りしませんでした。しかし考えることをやめられませんでした。なぜなら心の底で「どんな仕事でもいい。若者を少しでも援助する仕事ができたら。」という気持ちがあったからです。気のせいかもしれませんが、「大丈夫だから行きなさい。」といった後押しが感じられて、自分の力の小ささを思いながらもついに 2011 年 4 月に学園の 15 人の新 1 年生の担任となりました。明るく素直で劇遊びが大好きなクラスでした。そよ風が吹く萱場公園でシートを広げてお弁当を食べました。「こんなに幸せなときを過ごして本当にいいのだろうか。」と思うほどでした。十日市場校舎の大きい学年になる日など遥かに遠い未来のことのようでした。その後、4 年生から 6 年生にかけて私とクラスに試練のときがやってきました。誰のところにも試練はやってくるとは思います。肝心なことは環境がどうあろうとも古い自分の中に留まらない大きい新しい自分をいつも、誰に対しても持てるかどうかということでしょう。残念で悔しく思いますが、この仕事に向かう動機にもなった過去の痛みや記憶が私の中で難しさを生むものとして生き続けており、現実には理想のようにはいきませんでした。

【卒業に寄せて＊生徒編＊】

「卒業に添えて」

私は9年間横浜シュタイナー学園に通い続けました。この学園はどんな学校なのかを説明するのがとても難しいです。なので、シュタイナー学園をよく知らない人たちにテストがないと言っただけで、偏差値の低い学校と思われ、ひどいことを言う人もいました。しかし、私は本当にこの学園に通うことが出来てよかったです。

沢山の理由がありますが、私が最初に思いついたのはオイリュトミーに出会えたことです。

そして、行事や発表の場が多いのもこの学園の魅力だと思います。それに、自分で人形も銅のお皿も竹の籠も作りまし、劇だって3ヶ国語でやりました。これらすべてが今の私を作っています。なにより、森田クラス、先生方、学園を支えてくださる保護者のみなさまに出会えたことが一番良かったです。そして、この学園に通わせてくれた両親にも感謝しています。

安食 美波

～卒業に添えて～

9年間お世話になりました。私は入学したときから学園に行くというだけで楽しくて、9年間の中で学園に行きたくないと思ったことは一度もありませんでした。

低学年の頃は背の高い大先輩たちに憧れたり、友達と遊んだりすることで学園生活を満喫していましたが、高学年になると年々やる事が増え、それはそれで楽しんでいました。

8年生のときに行った8年生劇は沢山の人の前で演技をするということ自体初めての事で、とても貴重な経験をさせてもらったと思っています。9年生になるとこれまで以上にやる事が増え、卒プロでは、本を借りて調べたり、模型を作ったり、最初から準備に苦労しながらも、本番ではカメラの話に耳を傾けて下さる沢山の皆さんに感動して達成感を味わうことができました。嵐のように過ぎた1年間でした。そして、今では、学園で出会ったクラスのみならず、先生方、保護者の皆様、学園の生徒たちに感謝しかありません。本当にありがとうございました。

佐々木 そら

9年間本当にお世話になりました。

私はこの学校に通って本当に良かったと思います。

小さい時に近所の友達と一緒に学校じゃないの？と思う時もありましたが、私はこの学校で好きなことや楽しいことをたくさん味わったと思います。そして、クラス一つで8年生劇とかいろいろなことに取り組めることや学校の雰囲気とかがすごくいいな、と私は思います。

絶対に子どもが9年になってからこの学校に通って良かったと思うので、ぜひ9年生までちゃんと学校に通わせてください。

先生方本当にありがとうございました。

また学校に遊びに来ます。

本当に楽しい時間をありがとうございました。このクラスで私は演劇を好きになり、本当に良かったと思っています。

加納 望

私たちは東日本大震災の直後に入学しました。そしてまさか卒業までがこの様な状況になるとは思ってもいませんでした。今の気持ちを一言で言うと「悔しい！」です。私はこれまで先輩方のカッコイイ卒業オイリュトミーや合奏・合唱を見るたびに私もいつかあなりたいとあこがれていました。それなのに新型コロナによる特別な事態により大きくて広いステージで発表ができなくなってしまいとても残念です。そして2週間前まではまだあると思っていた授業も心の準備ができないままあっけなく終わってしまいました。そのせいか卒業まであと数日となった今も実感が湧いてきません。でもこの状況だからこそ7人の友情・信頼がさらに深まった気がします。私たちのために全力を尽くして卒業までのサポートをして下さっている先生方、保護者の皆様9年間本当にありがとうございました。

清水 紗菜

「卒業に際しての思い」

横浜シュタイナー学園の先生方、保護者の皆さま、9年間お世話になりました。私たちは、2011年の春に入学し、1年生教室で学び始めました。私はまだその頃は、次は2年生になって隣の教室に行くということは全く考えておらず、大きな高学年の人たちを見てもいつか自分たちも大きくなって9年生教室で学ぶんだ、などとは考えてもいませんでした・・・が、気づいたら9年生教室に来ていました。ここまで来る中で、友達や先生たちと色々なことを体験し、その経験によって学ぶことがたくさんありました。9年生の1年間は暇がないほどやることがたくさんありましたが、私たちのクラスのメンバーは「やるならちゃんとやろう」という人たちなので、皆で力を合わせて終わることができました。私たちのクラスは人数が少ないですが、とても充実した日々を過ごしました。どうもありがとうございました。

中川 音羽

僕は9年間、この学園にお世話になり、本当に感謝しています。僕たちのクラスは入学したときは15人、男子は僕を含めて5人でした。その中で僕は、低学年の頃から人前に立つことがとても苦手な性格でした。しかしこの学園では、年に3回月例祭というものがあり、学んで来たことをたくさんのお客さんの前で発表しなくてはなりません。なので僕は月例祭の時期が近づいてくると、早く終わってほしいと思うほどでした。そして上の学年のすばらしい劇や発表を見るたびに僕には大きくなって無理なことだなと思ってしまっていました。しかし、そのように思っていた僕も知らず知らずのうちに8年生の劇でたくさんのお客さんの前で、舞台上がり、演技できるようになっていました。そのようにどのシュタイナー学校でも取り入れている劇や発表ごとで僕は大きく成長できたと思っています。又、その大きな劇をなぜ8年生のときに取り組むのか、9年間通った中で、それがどれだけ大事なことなのだと感じることができました。今は、12年生の劇を見て、僕には無理だなと感じています。なので高校に行っても、僕は劇や発表を通して成長していければなと思っています。

僕は小学生の頃、シュタイナー学校は発表ばかりして勉強しなくていいのかなと思っていましたが、今では本当にこの教育で育ってよかったなと思います。

山岡 春陽

「卒業に添えて」

9年生は充実した1年で卒業の日が来るのはあっという間でした。僕は3年生から横浜シュタイナー学園に通い、森田先生、クラスメートたちと一緒に過ごしてきました。僕がもし、公立の学校にそのまま通っていたのであれば、今の自分ではなく、また別の自分になっていたのではないかと思います。公立だとほとんどのクラスメートのことを知らないまま、1年ですぐに別れてしまいます。ですが、シュタイナー学園では同じメンバーで9年間を共に過ごすので、自分のクラスメートの性格や得意なこと、何に対して興味があるかなどについてよく知ることができました。そのようなクラスだからこそ、僕も個性を持つことができたのかもしれない。そして勉強についても、もし、僕が公立に行っていたのなら毎日、良い点数をとるための勉強に追われていたことでしょう。それに比べ、シュタイナー学園での授業は良い点数をとるための嫌々と勉強している感じは全くありませんでした。どの教科でも好奇心やもっと知りたいといった気持ちを持ちながら勉強に向かうことができました。

そして鉱物採集のように学んだことを実際に体験する機会があったことも、学びがより印象深いものになりました。勉強以外にも、演劇、音楽、オイリュトミーの発表を通して、舞台の経験ができました。手仕事や美術での物作りによって、いままで「できない。」と思っていたことも「やってみよう。」と挑戦できるようになりました。その他にもシュタイナー学園では自分が興味をもったことについて、卒プロなどを通して探っていけるという良い所もあると思います。

同じクラスの中だけでなく、後輩たちとも学園祭やタグラグビーで関わられたことを嬉しく思っています。そして周りの先生方は僕たちの成長をいつも温かく見守ってくれました。

学園の保護者の方も皆、とても親切で、色々な場面において僕たちを支えてくれました。

僕は本当に温かい学園だと感じています。僕たちを支えてきてくれた先生方、保護者の皆様、後輩たち、そしてクラスメートの皆さん、いままで色々ありがとうございました。

渡辺 賢太

【2019年度 卒業プロジェクト発表会】

3月1日(日)に、卒業プロジェクト発表会が行われました。9年生の生徒一人ひとりが、自分の興味関心があるテーマを選び、春から時間をかけて調べたり実験したり、創作したものをまとめ発表しました。例年の開催とは異なり、参観の規模を縮小した発表会となりましたが、それぞれの個性が光る発表は堂々としたもので、9年の学びを終えて巣立っていく7人の成長に広がる未来を感じる時間となりました。



「絵を描くときの陰影」



「保護犬・猫たちの現状と対策」



「私を幸せにする足踏みミシン」



「演技の魅力」



「照明による室内空間の創出」



「カメラの構造」



「私が憧れた舞妓さん」

【2019年度 卒業演奏&卒業オイリュトミー発表】

3月14日(土)、卒業式を翌日に控えたこの日、十日市場校舎オイリュトミー室にて、9年生による卒業演奏とオイリュトミーの発表を行いました。今学期は、公共のホールを借りて行う修了の会が行われなかったため、例年修了の会に引き続いて行われる卒業オイリュトミー公演を、場所を変え、参観者を入れ替えて、3回発表しました。会場の規模こそ小さくなりましたが、美しく立派な9年生の姿に、皆、魅了され、ときに涙をさそわれました。



卒業演奏

W.A.Mozart

Eine kleine Nachtmusik ト長調 K.525

合唱

山崎朋子 変わらないもの



卒業オイリュトミー

・フェリックス・メンデルスゾーン

無言歌集より 作品 53 第 3 曲 ト短調

・ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ
人間よ 気高くあれ

・フランツ・ペーター・シューベルト

即興曲 作品 142 第 2 曲 変イ長調

横浜シュタイナー学園の9年間

この春学園を卒業する美波の成長の記録を残そうと思い、これまでの子どもたちの写真のデータをまとめ、USBメモリーに入れ彼女に渡した。15年生きてきた証のようなものと考え、また9年間の学園生活を振り返るツールとして見てもらえればと考えた。改めて自分でもこの9年間の記憶を掘り起こすことができたが、学園の写真がほとんどないことに気が付いた。そうだ写真は撮らないことになっていたんだ。

9年前の2011年3月11日に発生した東日本大震災は、福島原発事故とともに忘れることのできない出来事であった。その翌月の4月9日に、横浜シュタイナー学園の入学を迎えた。かわいい子どもたちの姿は皆とって輝いていたし、保護者達もシュタイナー教育に対する期待感を持って皆生き生きとしていた。公立の学校にはない雰囲気があり、こじんまりとしたほのかなパステルカラーの教室には独特の世界が広がっていた。こんな空間で育つ子どもはどんなに幸せで、きっと良い子に育つと確信のようなものを感じた。1年生から2年生は無垢な子どもたちの様子を見るだけで幸せな気持ちになり、学校へ行くのが楽しみになった。3年生ぐらいから幼さが抜け、家づくりや田植えなど実習が始まった。7期生森田クラスの特徴と言えば演劇で、修了の会の発表のみならず、日々劇遊びで盛り上がっていたのが微笑ましかった。5年生ぐらいからは徐々に体が大きくなる子どもたちとシュタイナー教育の目玉であるオイリュトミーが本格的に迫力ある動きができるようになり見事だった。しかし6・7年生ごろになると大きく変わった。皆個性が出てきて一人の人間になってきた。エポックノートは同じことを書いているが、それぞれ違うノートが出来ていった。クラスという社会の中には違う個性と考えを持った子どもと、その保護者がいることが明らかになっていく過程で、多くの子どもたちが離れて行き悲しかった。美波は自分のことだけでなく、人のことが考えられるようになったと、大人になっていくのを感じた。8年生劇、9年生の卒プロはこれまでの教育の集大成となった。やはり学園の9年間の各種イベントは、子どもの成長に合わせて計画されているということに改めて気づかされた。そして今年2020年3月15日、新型コロナウイルスの世界的な蔓延による混乱が生じ、多くのイベントが中止になる中、卒業することができた。波乱の9年間であったのであろうか。

普段、裏の森に娘と犬の散歩に行くと、学校での出来事や彼女のいろいろな考えを聞くことができた。卒業に際しこの学園の教育を受けたことは良かったかと聞くと、「とっても良かったし楽しく、幸せな学園生活を送ることが出来た。」と言われほっとした。楽しく充実した学園生活を送れたことは、子どもの人生の良きスタートが出来たのではないだろうか。これは横浜シュタイナー学園の教育を支えた多くの先生方と支援をいただいた方々の賜物であり、皆さんに感謝したいと思います。これから子どもたちはそれぞれの進路に向かうが、離れた子も含めこれからも仲良く遊びに来てくださいね。

インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

2020 年度入学説明会

- 【A】「シュタイナー教育とは」「教育内容について」
- 【B】「保護者の学園への関わりについて」

※A→B の順で両方の回に必ずご出席ください。

6/20 (土)	入学説明会 A	(14:00～16:00)
6/27 (土)	入学説明会 B	(10:00～12:30)
9/ 9 (水)	入学説明会 A	(17:00～19:00)
9/12 (土)	入学説明会 A	(14:00～16:00)
9/16 (水)	入学説明会 B	(17:00～19:00)
9/19 (土)	入学説明会 B	(10:00～12:30)
9/20 (日)	入学説明会 A	(14:00～16:00)
9/27 (日)	入学説明会 B	(10:00～12:30)

詳細は学園 WEB サイトをご覧ください。

～事務局より～

ご支援ありがとうございます。
大切に活用させていただきます。
(順不同・敬称略)

よこはま夢ファンドを通してのご支援：尾上浩一、石塚一真、
八ッ橋和代、永野俊広
一般ご寄付：星の金貨
心より感謝申し上げます。

SNS はじめました！

横浜シュタイナー学園 Facebook 公式ページと
Instagram 公式アカウントを開設しました。

FB

<https://www.facebook.com/steineryokohama>




Instagram

[yokohamasteiner](https://www.instagram.com/yokohamasteiner)



ぜひ、フォロー、お友だちへのご紹介をお願い致します。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局  学園サイトはこちらから

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029 店 (セトキヨウ店) 当座 013702

茶話会

～教員を交えてざっくばらんにお話ししましょう

校内見学会

～教室など校舎内を教員・事務員がご案内
新年度すでに日程が決まっているものは以下になります。

詳細は学園サイトでご確認ください。

5月15日(金) 平日校内見学会

8月29日(土) 校内見学会

お申し込みは学園事務局までお願いいたします。

学園周辺ぐるっと探訪会

学園を起点に、親子でゆっくり歩きながら、学園周辺の
緑豊かな教育環境を探訪します。

里山の古民家で楽しくお弁当をいただき、帰路は JR
十日市場駅までご案内します。

日時：5月30日(土) 8:45 霧が丘校舎集合

*雨天 5月31日(日) に延期

お申し込み、お問い合わせは、学園事務局までお願い
します。

詳細は、学園サイトでもアップしていきます。

☆ 星の金貨より ☆

スクールショップ星の金貨は公開講座や各種催しの際
はもちろん、平日の学園の開いている時でしたら、ど
なたでもお買い物いただけます。

お気軽にお立ち寄りください。

事務室にお声掛けください。

お問い合わせのメールアドレスが変更になりました。

hoshino.kinka7@gmail.com



横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第129号～

2020年3月25日発行

編集： 広報の会

発行： NPO 法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします